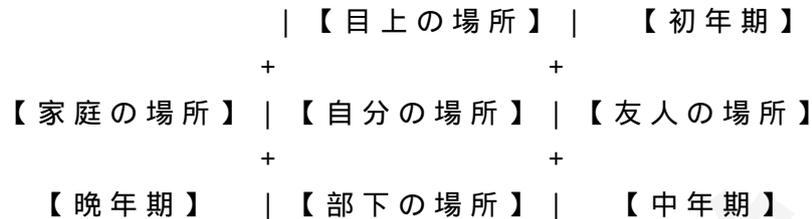


【第4章】 十二大陽星（十二大従星）



天報星【前世星】

胎児の星で、生まれる前の母体にいるときの気を強く受けて、前世の星といわれます。才能豊かですが、考え方に一貫性がないため気の変わりやすい人と誤解をまねくことがあります。動乱期に一時的に人の上に立つことができますが、持続性がありません。

人体図の他の場所に天将星【帝王星】があると、物事を割り切って考える人格です。そのため、人間関係がギクシャクすることがあります。親元を離れて一人暮らしを始めるところから運勢が稼働を始めます。

人体図の他の場所に天貴星【青年星】または天胡星【衰弱星】があると、交際範囲を広げようとし活動的になります。人間関係で価値観は違っても目的を同じくして前に進める運勢です。

【初年期】

幼少期から思春期を過ぎて成人する頃までは、器用貧乏で多芸多才です。才能豊かな育ち方をしますが、落ち着きのない子供時代です。

【中年期】

世の中、社会と係わるようになって、中年期に人生に大きな変転変化があります。会社の変化、転職、倒産、転居などの変化によって、あなたに心に大きな変化が訪れるようになります。車騎星、竜高星が【自分の場所】か【部下の場所】にあると、この変動を乗り切ろうとします。天将星【帝王星】、天録星【壮年星】のどちらかが【初年期】、【晩年期】両方にあると人生が不安定になるか、仕事のトラブルが多くなります。生家、実家を離れることで、不安定な仕事、流動性